

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800168		
法人名	株式会社 陽楽		
事業所名	グループホームMボヌール		
所在地	〒655-0852 神戸市垂水区名谷町字平ノ垣内871-1		
自己評価作成日	2012年8月29日	評価結果市町村受理日	平成24年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本福祉文化研究センター		
所在地	534-0016 大阪市都島区友漕町1丁目3-36-401		
訪問調査日	2012年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と看護・介護の連携が常に取れ、体調の変化を早期に発見して、地域の医療機関へも迅速に紹介できる体制がとれています。近隣に「あじさい公園」があり、緑に囲まれた静かな環境です。また医療機関がバックボーンであり、医療と介護のほどよい連携を志したホームです。医師の指示のもと管理栄養士が栄養管理をし、昆布と鰹節のだしを基本とした「京料理 花萬」の美味しい食事が好評です。ホーム内にパン工房と屋上菜園を設置し、皆で楽しく収穫したり、手作りのパンを焼いたり、作ることで育てることの喜びを共有しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療を拠点に、有料老人ホームを立ち上げ、その延長線上にグループホームの位置づけができています。設立して間がない事業所であるが、パーソン・センタード・ケアの内容を理解し、「地域医療と介護の連携した事業所」としての取り組みが適切に行なわれている。事業所と家族との信頼関係もできており、意見の言いやすい環境がアンケートの調査からも読み取れ、地域のボランティアの受け入れも積極的である。栄養管理などでも、いろいろ工夫がされており、食事を楽しむ視点を大切にしている。2ユニットが同一平面にあり、管理部門を中心に設けていることで、見守りや行事が安心して行える。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に施設理念を掲げ、毎日スタッフで読み上げている。	運営理念は、法人として「高齢社会に貢献できる施設」を掲げている。地域医療と介護が連携する体制を目指し、新人研修で理念を周知徹底し、日々の業務で実践している。今後1年かけて、グループホームとしての独自理念を作りたいと考えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の案内は地域にもお出し、学校等にも送付している。	自治会には入っていないが、地域の情報を民生委員等からもらい、イベントに作品を出品している。屋上の菜園では地域住民と協力し、野菜作りや収穫に園児や、中学、高校生の参加もある。七夕や夏祭りなど、地域の祭りにも参加している。事業所のパン工房で、地域ボランティアも参加しパン作りを行っている。	ボランティアの参加が多い事もあり、将来的にはボランティアを対象として個人情報保護の研修を行ってはどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんしんすこやかセンターとは常に連携し、施設見学等に要望には積極的に対処している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の予定で開催し、意見交換を活発に行っている。	2か月ごとに運営推進会議を開催している。利用者、家族、精神科医、地域住民、包括支援センター職員などが出席し、意見を交換している。家族からの提案があり家族会を作っている。職員のネームプレート作成についても提案があり、検討中である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	人員配置における実態は早めに報告し、アドバイスを頂いている。	市町村担当者とは日常的に関わりがあり、積極的に意見交換や人員配置の入れ替え等で相談助言を受けている。	警察署や消防署とも利用者の情報を共有し、行方不明人捜索や災害時の対応に役立ててはどうか。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設従業者虐待防止研修へもスタッフが出席しており、施設内研修でも取り上げて再学習の場を持っている。	昨年、外部講師による「拘束と虐待防止について」の研修を行っており、具体的に職員へ説明をしている。居室からはベランダに出ることが出来るが、玄関や外部に通じるドアは安全上施錠している。利用者が外へ出たい場合は、付き添うことで適切なケアを実践している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声かけにおいても、不適切と感じた場合には、お互い指摘しあい注意喚起を促している。	マニュアル等、虐待の資料を配布し勉強会を実施している。言葉かけなど、日頃からの振り返りを意識づけ、職員相互に確認し合っている。毎週、法人理事長がカンファレンス会議で職員の困っていること、心配事などの相談に乗り、ストレス軽減に配慮している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス担当者介護の場では必ず話し合いの項目に入れてケアプランに反映させている。	成年後見利用の方が1名おられる。入居時に後見を検討することになり地域包括支援センターに相談、司法書士とも連携して実施している。この事例を担当した職員を中心に今後職員全体で勉強会を実施していきたい。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には2名以上の職員があたり、資料を元に説明し、理解を得ている。	契約はホーム長、室長の2名が担当し、事前に書類を渡して重要事項や契約書、制度の説明を丁寧に行っている。家族からの質問が多くあった項目については随時資料追加して分かりやすい説明を心がけている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望の件数は運営推進委員会で報告し、対応についても説明している。	家族会を年に2回開催している。家族の出席も多く積極的な意見が交わされている。要望や苦情は取りまとめて運営推進委員会で報告し、苦情についてはその都度対応している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議や適宜の個別面談等で意見を聞いている。又随時相談事として聞いている。	代表者は週2回ほど来所し、毎月1回の職員会議などを通じて職員と自由に意見交換している。管理者との個別面談や、悩み等相談も行っている。利用者の担当職員を決めており、密接なケアが出来るよう心がけ、利用者の持ち物についての意見をケアに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族様からの言葉などはきちんと本人にも伝え、ケアの対応への評価につなげている。サービス残業は不可としている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護サービスや技術、知識の向上につながる研修を選んで、個人研修として参加を計画し、伝達講習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会にリーダーや施設長が参加し、2ヶ月毎に意見交換や情報を共有している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面談に行かせて頂いたスタッフが中心となって、フェイスシートや介護情報書を作成し、そのプランにそって対応している。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に面談訪問させて頂くなかで、現状や過去のご様子等もしっかりと聞いてフェイスシートを作成している。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居時には暫定のケアプランを作成して提示し、その後約1ヶ月後にはケアプランを修正して提示している。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の日課の中で、その人が楽しんで行えることをスタッフといっしょにできるように常に声かけをしている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた時には、直近のご様子をお話し、又ご家族の思いを聞いていくようにしている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご親戚からのTELの取次や、ご本人からのTEL希望に対しては、その都度行っている。	隣接する有料老人ホームとのご家族の行き来や友人の訪問など、利用者との関係性継続の支援を大事にしている。家族の来訪時にリビングで一緒に過ごしたり、外食を楽しむことも支援し、電話の取り次ぎも随時行っている。母の日に花のプレゼントが届くこともある。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じた席がえや、場所設営を頻回に行うが、その際には常にご入居者同士の関係を考慮している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	突然入院となった場合には、しばしばTEL訪問や、病院訪問も行い、退院後を見ずえた相談を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議には、ご家族様の参加も多く、意向を十分にお聞きしている。	日常生活の中で利用者本人の意向を把握するように努めている。現在3名の利用者をご自身の担当者会議にも参加しており、サービス担当者会議には、家族や利用者も参加できるように日程を設定し働きかけ、担当職員も同席できる。アンケートからも、意見の言いやすい状況であることが分かる。	アセスメントの視点から、利用者の希望や意向を把握することが大切です。記録のとり方など、職員の研修に反映させるとよいでしょう。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に情報収集をしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に情報収集をしている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で出た意見を取り入れて修正できている。	ケアチェック表を活用しながら、介護と医療の両面からモニタリングしている。施設サービス計画の書式を用いており、短期目標も具体的に捉えられている。	介護計画の中で、家族の役割にも着目して見ると良いでしょう。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎のモニタリングにつなげ、次回の計画に役立っている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉をきちんと伝え、外出の機会や、買物の対応など、できるだけ支援をしていくようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神戸市垂水区の施策については常に注意を払い、情報を得ていくようにしている。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時に、ご家族様の意向をお聞きし、かかりつけ医は指定していただいている。往診についても了承をいただいたうえで実施している。	運営母体は医療機関のため、緊急時においても対応ができる。地域医療をベースに、かかりつけ医は家族や利用者の意向を優先している。医療連携加算もあり、医療と介護の連携を目指しており、整形外科や歯科などへも必要に応じて紹介をしている。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名配置しており、日勤帯は、医療・介護の情報提供は密にできている。夜間はオンコールで看護師に連絡できる。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院には、看護師が付添い、HPに対して情報提供を充分行っている。退院調整にも積極的に対応できている。	入院時には管理者(看護師)が対応し、お見舞いや家族との情報共有を行っている。退院に向けて、管理者は医療機関のMSWとの連携を図っている。	退院に向けての取り組みでは、医療機関の開催するカンファレンスに、計画作成者などが参加してみることも必要です。
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	夜間は看護師がオンコールの状態勤務にはつかないため、処置に対する限界があることを通常からご入居者様の家族様とも話し、できないことの説明をしている。	重度化や夜間の対応については、事前に利用者および家族に説明を行っている。終末期に向けての取り組みの指針があり、今後、具体的な取り組みやマニュアルの作成を予定している。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応マニュアルを作成し、定期的な勉強会を開催して、訓練をしている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的実施すると共に、非常ベルへの対応を学習し、実際に行動をおこしている。	隣接する有料老人ホームと、年に2回の消防訓練を行っている。近くの小学校が避難場所となっており、地震や豪雨への対応も、新人の災害研修の中で行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソン・センタード・ケアの勉強会を実施して認知症の「人」への対応を全員ができるようにしていく。	利用者への呼びかけにも注意している。「その人らしさ」を大切にした介護に取り組み、管理者が受講した実践者研修など、職員への伝達している。	運営推進会議の報告などを行う場合、個人のプライバシーに関する情報の取り扱いに注意が必要です。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が選択できるような問いかけを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に添って介護サービスが実施されてはいるが、参加や不参加の意見はその都度確認している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その都度、様子を見て対応している。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	参加することを好まれる方にはうまくお声かけをしていっしょに行っている。	同じ法人の中で、管理栄養士が献立などを作成している。水曜日にはおやつ作りをしたり、フランス料理のシェフによる料理教室を行ったり、パン工房で作った出来立てのパンを提供している。屋上で収穫したハチミツや季節の野菜なども、食卓を賑わしている。男性の利用者も積極的に調理や片付けにも参加してもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の提供以外にも、個別で居室に持っていったりもしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいのお声かけや義歯の洗浄等、支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご様子を観察しながらのお声かけをし、付着等の確認時には看護師に報告し、処置も行っている。	トイレは自室及び共用部にあり、トイレは自室及び共用部にあり、見守りや一部介助の利用者には様子を見ながら声かけをしている。夜間は3時間ごとにチェックし、外出時には予備の備えなどをして、安心できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ毎日ヨーグルトを提供している。排便時には腹部マッサージも行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の設定はしているが、その方の意見をその都度確認し、無理には誘っていない。翌日に変更している。	日曜日以外の午前及び午後の時間帯を使って、週に2回以上の入浴の機会を確保している。入浴後の着替えの洋服選びや、マンツーマンでの対話も行っている。また、利用者のADLによってはリフト浴も可能である。今後、イベント湯の取り組みも検討している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が日中もみられる時は、ベッドに誘導し、1～2時間は居室で休んでいただくこともある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情やお薬手帳なども見やすく設置し、いつでも調べることができるようにしている。日中は看護師を配置。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどのご入居者様は一日中リビングで過ごされるため、スタッフがかわるがわるお声かけをしている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけることがすぐできる環境にもあり、ちょっとした外出の機会は多くとれている。屋上の菜園もしっかり利用できている。	隣接する有料老人ホームの家族利用者に会いに出かけたり、美容や書道教室に出かける利用者もいる。気分転換で、屋上の菜園を見に行ったり、近くのコンビニへ駄菓子などを買いに行く利用者もいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物ツアーの時にはいくらのお金を持っていただく計画にするが、普段は現金の必要性がない。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申し出がある時はすぐに対応できている。(夜間遅い時間は、説明して明朝に行く。)		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダでの日光浴や花への水やり、洗濯物を取り入れたりと、家庭での日常を心がけている。	建物が新しく、玄関ホールは清潔感があり、ホテルのロビーを思わせるリビングは落ち着いて過ごすことができる空間である。事務空間とキッチンがユニットの中間にあり、利用者の見守りもしやすく、リビングに接してベランダがあり、喫茶などにも利用できる。平屋の建物の屋上にもEVで上がれ、菜園や園芸、物干しなどに活用している。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、よくソファの移動や席替えを行い、ご入居者様間の付き合い方を常に考慮している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に馴染みの品を持ち込んでいただくように説明し、スタッフもいっしょに居室へ行った時には話のテーマに取り入れている。	平屋で2ユニットであるが、各部屋にトイレ、洗面、エアコン、カーテンが設置されており、快適な空間となっている。写真、愛読書や、洋服、イヤリングなどのアクセサリーなどの持ち込みもあり、家具など新しく揃えて持ち込む方も多い。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に物を置いておくことが難しいご入居者様に対しては、家族様とも話し合い、共用部のクローゼットにお預かりしている。		